

文楽 Bunraku News 応援団通信

文楽
応援団通信

第34号

2019. 1. 3



だんのうらかぶとぐんき
『壇浦兜軍記』

文楽応援団ホームページ
<http://bunrakuouendan.web.fc2.com>

文楽応援団 検索

文楽応援団ツイッター
<http://twitter.com/#!/bunrakuouendan>

QRコードはこちら



HP



Twitter

文楽応援団の自己紹介 Issued by Bunraku Ouendan

文楽応援団は文楽の普及・振興を目的とするボランティアのグループです

おもな活動内容は

- ①文楽公演のポスター・ちらしを配布
 - ②資料展示室における文楽関係展示品の解説
 - ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
 - ④劇場外での普及活動(文楽の楽しみ方などを解説)等々です
- この他、文楽に関する学習会や懇親会なども行います

新規団員を募集します

文楽の普及のために、一緒に活動しませんか

- ・国立文楽劇場の友の会会員であることが必要です
- ・「募集要領・申込用紙」は平成31年初春文楽公演展示室での解説時間中に応援団員にお声かけください
- ・締切は平成31年1月25日(金)です



めいぼくせんだいはぎ
『伽羅先代萩』

つれづれなるままに

独立行政法人日本芸術文化振興会

国立文楽劇場 副支配人

柳 瀬 嘉代子

今日は高津小学校の学習発表会でした。六年生の児童が真面目に上手に文楽を演じている姿を観ながら、頭の中に「出会い」という言葉が浮かんできました。高津の子ども達は学校で観客ではなく演者として文楽と出会う、これはかなり強烈な出会いでしょうけれど、それでも殆どの子どもの人生に文楽は影響しないんでしょうねえ、と、ちよつと寂しい気持ちもしました。

私自身は、四歳で日本舞踊に、小学校に上がる前に歌舞伎に、小学校時代文楽・狂言に出会いました。中学校からは芋蔓式に新劇・ミュージカル・西洋演劇と様々観てきました。が、今身を置いている世界は、自分の意志で観たものではなく「出会った」ものです。私にとつて、子どもの頃の出会いは、心地好いものだったに違いありません。田舎の子なので沢山観た訳でもなく、ちよつと

「出会った」だけなのに…、不思議です。

文楽応援団の皆様と文楽の出会いには、どうだったでしょうか。それぞれが素敵なものだったのでしょうか。

この不思議な出会いに「縁」というものを感じます。

私はこれまで、ものだけでなく、いろんな方とご縁もいただいてまいりました。私の人生は、様々な縁によって成り立っていると云っても過言ではありません。

そして縁あって私は文楽劇場に赴任し、文楽応援団の皆様とご縁も得ました。

皆様が文楽を大好きで熱心に活動なさっているのには、頭が下がります。この無償の愛、私も見習います。

私が文楽応援団の皆様にお願ひすることは「文楽のご最良を続けて下さい」、そして「文楽を初めて観るお客様や子ども達が好い出会いをするのを手助けしてあげて下さい」ということです。

私は、来年三月で退職、となります。お世話になりました。ありがとうございました。ごさいます。

(十一月二十三日記)

やっぱり文楽はやめられない！

其の二十九

『私と文楽』

下 神 恩 美

「ああ、もつたいたいことした」
まだまだ、若輩者であるが、文楽について振り返ると、こう思う。

大阪で生まれ育つたのに、文楽のことはほとんど知らなかった。子どもの頃、父から、吉田文五郎とか四ツ橋の文楽座の話が聞かされたが、「ふーん」と聞くだけで、国立文楽劇場ができたというニュースもかすかに覚えていた程度だった。

都内に転勤になり、毎日通る赤坂見附の地下道に当時国立劇場が広告パネルを出していた。文楽の案内も目にしてはいたが、当時の私は歌舞伎に夢中で「人形の顔、ちよつと怖いなあ」というのが正直な感想だった。

大阪に戻つてからは、図書館で歌舞伎関連の本を読みふけていた。文中に、「丸本物」「文楽の」の言葉をよく目にし、え？あの演目も元は文楽？と、恥ずかしながらようやく知った次第である。

たまたま、そんな時に当時の竹本綱太夫さん・鶴澤清二郎さんが地元「文楽教室」に来られた。「文楽とは？」ということを一から解説し

てくださり、最後に地方公演のチラシをもらい、翌月、ラブリールホール（河内長野市）に行ってみた。「野崎村」で、太夫・三味線・人形が互いに見ていないのに合う一体感と、飄々と人形を遣う先代吉田玉男師匠に釘付けになったのを覚えている。

それからは、ほぼ毎公演文楽に足を運ぶようになった。

人形なのに人より雄弁に語りだすことに驚き、男性の声なのに、女性でも子供でも違和感がなく、お腹に響く太棹。え？無茶なところもあるが、泣いたり、笑ったり、時々あまりの心地よさに白河夜船…と、三位一体の小宇宙空間なのだ。また、人の情は時代を超えて沁み入るものと改めて感じた。

その後、再び都内に転勤になり、今更ながらメトロ文楽や劇場に足を運んだ。こんなに近くに国立劇場も永田町もあつたのに…と、後悔することしきりであった。

あれから、数々の師匠方が引退されたり、舞台を天国に移され、もしかしたら劇場から足が遠くの人がいるかもしれない。

でも、今、観ないと、将来きつとこう思う。「ああ、もつたいたいことした」。だから「やっぱり文楽はやめられない！」

最近の活動風景

解説風景



展示室での解説



出前解説（正法寺）2018.9.23

ゆかりの地巡り



『蘆屋道満大内鑑』
ゆかりの地（大阪府和泉市）まち歩き
2018.10.14



文楽応援団 HP 用取材
『鶴山姫捨松』中将姫ゆかりの地巡り
2018.10.3

文楽応援団 東西と一さい

※平成 30 年 8 月、桐竹勘十郎さんが第 38 回「伝統文化ポーラ賞」優秀賞を受賞されました。

※平成 30 年 10 月、文楽人形衣裳縫製の牧野圭子さんが第 24 回ニッセイ・バックステージ賞を受賞されました。

※主な公演及びイベント(平成 30 年 8 月～ 12 月実施)

※ 8 月 25 日(土)26 日(日)、「内子座文楽」(愛媛県)が開催されました。

※ 10 月 5 日(金)～ 7 日(日)、【ムム!! 文楽シリーズ「中之島文楽」】が大阪市中央公会堂にて開催されました。

※ 10 月 12 日(金)13 日(土)、「ジャポニズム 2018: 響きあう魂」の公式企画として、ジ・ド・ラ・ミュージック(仏)にて文楽公演が開催されました。

※ 10 月 13 日(土)、「道頓堀リバーフェスティバル 2018 道頓堀川面舞台」で文楽イベントが開催されました。

※ 10 月 19 日(金)～ 12 月 19 日(水)、大阪市立中央図書館にて「国立文楽劇場 公演関連展示(11 月文楽公演演目と文楽に関連する本)」が開催されました。

※ 11 月 29 日(木)、「日経イベント第 15 回「文楽の夕べ」(大阪市中央公会堂)」が開催されました。

※応援団 HP 来訪者数が 104,029 人、文楽応援団ツイッターのフォロワー数が 2,456 人になりました。(2018.12.8 現在)

※次回公演予定

東京:平成 31 年 2 月 2 日(土)～ 18 日(月)

大阪:平成 31 年 4 月 6 日(土)～ 29 日(月・祝)

※18 日(木)休演

CHILD SACRIFICE

In period plays in both bunraku and kabuki, the most extreme dramatic highlights revolve around the custom of sacrificing one person's life for that of another of higher rank. This always involves great emotional highpoints, such as when Matsuomaru in Terakoya ("The Village School") opens the head box, wondering whether it contains the severed head of his little son Kotaro.

Indeed, children are often chosen to be death substitutes. It is normally because the villains are plotting to wipe out an entire family line, so the youngest must be saved at all costs. This is the case in this month's play, Meiboku Sendai Hagi ("Strife in the Date House"). But in an unusual twist, the child's brutal murder takes place onstage, before the eyes of his mother, Masaoka, who must keep silent in order to save her lord.

Unlike most period tragedies, which began as bunraku plays, this unique depiction of child sacrifice came originally from kabuki. There is a long custom of kabuki re-writing superhero plays for female heroes;

it is possible that this tradition influenced the creation of the powerful Masaoka. It is also likely that she was created for a female market. Plays about women in the warrior class were written especially for their counterparts, serving women in the Shogun's household, and customarily staged in spring, when they had their annual holidays and were free to go to the theatres. No doubt Masaoka's steely resolve was meant to be a feudal morality lesson for ladies in service to great lords.

Despite the magnificent drama, it is difficult today to watch stories of child sacrifice. We can only hope that they were not based on fact. The high, piping monotone in which child actors habitually speak in kabuki is said to have been developed for just such stories, a highly stylized device to keep the children from relating realistically to the horrifying tragedies they are enacting.

Faith Bach

Earphone Guide

- 7/21 夏休み文楽特別公演初日。展示室にて解説など、8月7日まで。
【文楽応援団通信第33号】3,000部発行。
- 8/18 【スタッフ会議】 出席:9人。
- 8/24 【第5回研修会】 前日準備。世話人:安藤。
- 8/25 【第5回研修会】 出席:40人。
「折り紙教室」担当:関口。
「学習会」「夏休み特別文楽公演を観て」発表。進行:榊田。
【勉強会】「第2回『女殺油地獄』の時代背景について」参加:24人。
- 9/ 3 【第5回研修会】 報告書発送作業。世話人:荒木・安藤。
- 9/23 【出前解説】「正法寺(大阪府泉南郡熊取町)」より解説依頼。40人。
担当:荒木・馬越・前川・横山・安藤。
- 10/ 3 【文楽応援団HP用取材】 當麻寺・石光寺・日張山青蓮寺・誕生寺・光林寺・安養寺。
担当:榊田・関口・安藤。
- 10/13 【スタッフ会議】 出席:9人。
- 10/14 【文楽ゆかりの町歩き】「『蘆屋道満大内鑑』に因んで」
信太森葛葉稲荷神社・旧府神社・信太の森ふるさと館・鏡池・聖神社。参加:10人。
- 10/19 【第6回研修会】 前日準備。世話人:荒木・安藤。
- 10/20 【第6回研修会】 出席:43人。
「解説日程調整」
「11月文楽公演演目説明、見どころ解説」担当:藤田(敏)。
「折り紙教室」担当:油田(悟)。
「学習会」床本「信太森二人奴の段」を読む。
【勉強会】「第3回『女殺油地獄』の時代背景について」参加:24人。
- 10/25 【文楽応援団活動写真が初作成】 担当:荒木・齋藤。
- 10/29 【第6回研修会】 報告書発送作業。世話人:荒木・安藤。
【11月文楽公演演目リサーチ】 講師:国立文楽劇場企画制作課。出席:16人。
- 11/ 2 11月文楽公演中の解説のための準備。担当:安藤。
- 11/ 3 11月文楽公演初日。展示室にて解説など、11月25日迄。
- 11/16 【文楽応援団通信第34号】 第1回編集会議。出席:3人。
- 11/20 NPO人形浄瑠璃文楽座より「ワコウ文楽」参加者へ解説依頼。41人。担当:前川・安藤。
- 11/23 「近畿大学山取ゼミ」より解説依頼。25人。担当:下神。
【文楽応援団通信第34号】 第2回編集会議。出席:2人。
- 12/ 3 【文楽応援団HP用取材】 壺阪寺・誉田八幡宮・竹内街道など。
担当:榊田・関口・安藤。
- 12/ 8 【スタッフ会議】 出席:9人。
【文楽応援団通信第34号】 第3回編集会議。出席:2人。
- 12/14 【第7回研修会】 前日準備。担当:荒木・安藤。
- 12/15 【第7回研修会】
「解説日程調整」
「初春文楽公演演目説明、見どころ解説」担当:藤田(敏)。
「学習会」この一年間を振り返って。
「折り紙教室」担当:油田(悟)。
【文楽劇場前の石碑掃除】
【文楽応援団通信第34号】 第4回編集会議。
- 12/19 【文楽応援団活動写真が初作成】 担当:荒木・村上(明)。
【文楽応援団通信第34号】 第5回編集会議。
【第7回研修会】 報告書発送作業。世話人:荒木・安藤。
【初春文楽公演演目リサーチ】 講師:国立文楽劇場企画制作課。

文楽公演

平成31年 3月

地方公演スケジュール

【主催】文楽協会 【後援】文化庁

ユネスコ無形文化遺産、人形浄瑠璃文楽。

演目【昼の部】「解説」『義経千本桜』^{よしつねせんぼんざくら}「椎の木の段」「すしやの段」

【夜の部】「解説」『義経千本桜』^{よしつねせんぼんざくら}「道行初音旅」^{しんぼんうたざいもん}『新版歌祭文』「野崎村の段」

地方公演チケットお問い合わせ先

3月2日(土)	京都府立文化芸術会館(京都府京都市) 075-222-1046	3月14日(木)	高崎市文化会館(群馬県高崎市) 027-325-0681
3日(日)		15日(金)	大田区民プラザ(東京都大田区) 03-3750-1611
4日(月)		16日(土)	府中の森芸術劇場(東京都府中市) 042-333-9999
7日(木)	戸畑市民会館(福岡県北九州市) 093-562-2655	17日(日)	宇都宮市文化会館(栃木県宇都宮市) 028-634-6244
8日(金)	倉敷市芸文館(岡山県倉敷市) 086-434-0010	21日(木・祝)	鳥取市民会館(鳥取県鳥取市) 0857-21-8700
9日(土)	しまなみ交流館(広島県尾道市) 0848-25-4073	23日(土)	グランシップ(静岡県静岡市) 054-289-9000
10日(日)	姫路市文化センター(兵庫県姫路市) 079-298-8015	24日(日)	四日市市文化会館(三重県四日市市) 059-351-2915

文楽応援団通信 第34号 2019年1月3日

編集・発行 文楽応援団(年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL06-6212-5542(直通) FAX06-6212-1202